

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

令和2年4月24日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所属部局 理学研究科

職 名 理学研究科長

氏 名 平島 崇男

助成の種類	令和元年度 ・ 社会連携助成		
事業名	理学への小・中学生の知的好奇心増進事業		
実施期間	令和2年6月18日 ～ 令和2年3月3日		
実施場所	京都府内の小・中学校、ZEST御池、ガレリア亀岡、けいはんなプラザ		
参加者	総数 1373名超	内 訳 おもしろ科学体験(京都府教育委員会と連携)613名 京都市立小学校・中学校との連携 100名超 ウォークインサイエンス 100名超 けいはんな科学体験フェスティバル2020 560名□	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 □ 無 ■ 有(小冊子)		
会計報告	事業に要した経費総額	3,006,950円	
	うち当財団からの助成額	2,000,000円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 京都大学大学院理学研究科 運営費交付金	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	物品費	547,670	541,134
	旅費	135,550	39,790
	謝金等	1,243,700	629,300
	通信運搬費	8,310	8,310
	印刷・製作費	180,208	180,208
賃借料	91,520	29,150	
その他	799,992	572,108	
合 計	3,006,950	2,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 柔軟な支出ができる助成事業で大変ありがたい。 助成開始時期については、できれば、4月から開始にさせていただけると幸いです。		

## 成果の概要／平島 崇男

名称：理学への小・中学生の知的好奇心増進事業

概要：

全 15 ヶ所で、京都府教育委員会との連携事業や京都市立小学校・中学校との連携で、小学校等を訪れてのおもしろ科学体験や、ゼスト御池でのウォークインサイエンス等を実施して、理学への知的好奇心の増進を行うことができた。

### 1. 事業の日時等

#### (1) 京都府教育委員会との連携

具体的には、下記の 7 ヶ所で、おもしろ科学体験を実施することができた。613 名の参加者があった。

6 月 18 日(火)	京丹後市立弥栄小学校	76 名
6 月 29 日(土)	南丹市立胡麻郷小学校	90 名
9 月 27 日(金)	城陽市立富野小学校	84 名
11 月 24 日(日)	奥山田ハートフル化石広場	150 名
2 月 7 日(金)	綾部市立東陵小学校	43 名
2 月 10 日(月)	南丹市立園部小学校	100 名
2 月 10 日(月)	南丹市立美山小学校	70 名

※3月3日(火)に長岡京市立長岡第十小学校、向日市立第3向陽小学校での実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

#### (2) 京都市立小学校・中学校との連携

下記の日程で 5 ヶ所で理学普及活動を実施できた。100 名を超える参加者があった。

7 月 6 日 (土)	京都市立第四錦林小学校
10 月 26 日 (土)	京都市立第四錦林小学校(場所：京都大学東一条館)
11 月 9 日 (土)	京都市立高倉小学校
1 月 11 日 (土)	京都大学総合博物館 (午前：第四錦林小学校。午後：一般)
2 月 6 日 (木)	京都市立近衛中学校

#### (3) ウォークインサイエンス

下記の 3 つの会場にも、おもしろ科学体験を出展した。特に、ゼスト御池では、人通り

の中での実施で、このイベント以外の目的で道を通っている人も呼び寄せることができ、より一層幅広い層に理学普及をすることができた。各回とも、数百名程度の多くの方がブースを訪れ、合計で 710 名を超える参加者があった。

8月10日(土)	ウォークインサイエンス京都市役所前地下街	ゼスト御池	100名超
11月23日(土)	地域ふれあいサイエンスフェスタ 2019	ギャラリーかめおか	50名超
2月11日(火・祝)	けいはんな科学体験フェスティバル		560名

※10月12日(土)にゼスト御池で開催を予定していたウォークインサイエンスについては、台風19号接近のため中止した。

## 2. 内容

「おもしろ科学体験」においては、京都府教育委員会にお願いして、小学校との連絡を一括して担っていただいている。小学校では、長机12台を体育館や多目的スペースに準備していただき、各机に大学生スタッフが一人つき、同時に3名程度の小学生を担当する。小学生は、自らが好む実験ブース（ブース内容の詳細については別紙参照）にまわる。

大学生スタッフは、100名を超える学生スタッフ（内、積極的な参加者は約20名）が京都大学理学研究科サイエンス連携探索センター広報・社会連携部門の社会交流学生スタッフメーリングリストに参加しており、イベント実施日に都合がつく学生さんが参加している。

## 3. 成果

多くの小学生・中学生に対して理学への知的好奇心の増進を行うことができた。さらには、多くの大学生スタッフが運営に携わることで、理学普及のための集団を形成することができた。

さらには、京都大学と京都府教育委員会や学校との連携を強化することができた。